２０２６年１０月２８日改訂

令和８年度

運営に関する計画

中間評価



大阪市立苅田南小学校

（様式１）

大阪市立苅田南小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

令和７年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合が 81.1％で、肯定的な回答は 95.6％であった。意識としては高い水準であるが、否定的な回答をしている 4.4％の児童に対する取組や継続した指導が重要である。また、小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 91.8％であった。不登校児童は改善がみられる児童もいるが、新たに不登校になる児童もおり、割合は増加傾向にある。多くの児童が安心・安全に登校できている状況であるが、学級・学年・学校全体で友だちと喜びを味わう活動や成功体験を積み重ねることを通して児童の自尊感情をより高め、「学校は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を 95％以上にしていく。

様々な教育活動や教職員と児童の信頼関係を構築することで、いじめを許さない意識をより高めていくとともに、いじめについてはアンケートや「心の天気」を活用し、早期発見・解消に今後も努めていく。解消率については 100％に近づける。不登校児童についても家庭との連携の連続性をより深め、不登校在籍率を毎年、前年度以下に減少【令和７年度 3.9％】するようにしていく。

より主体的に行動できる高学年の育成を図りながら、子どもたちの横のつながりと縦のつながりを太くしていくことを意識した教育活動を推進すること、並びに児童一人一人のがんばりを認め、自尊感情を高める取組を継続して行いながら、より安心・安全な学校づくりを実現させていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和７年度小学校学力経年調査は、国語科や算数科については、概ね前年度以上の結果であった。しかし、課題もあるため、しっかりと検証し、今年度以降の取組を考えていく。学校アンケート「授業の内容がわかる【令和７年度 92.2％】」でも、高水準を維持しており、学習規律が確立でき、児童の学習意欲も高まってきている。そのため、授業力向上に向けた研修を重ね、今後も大阪市平均を上回ることができるようにしていく。

令和７年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は前年度以上【令和７年度 51.2％】であったが、目標は下回っていた。そのため、主体的・対話的で深い学びの授業、協働的な学びを更に推進できるよう、学校全体での研修を重ねて授業改善を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日における学習用端末の使用機会を増やしてきた。昨年度は、授業での活用とともに、「心の天気」を日々活用し、児童の見取りの可視化も大切にしてきた。授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、令和７年度末時点は年間授業日の 48.6％と前年度以上であったが、目標に達していなかった。【令和６年度 15.4％】授業以外の場面での学習者用端末の活用事例を広げることで、さらなる児童の活用割合を増やしていく。

本校において、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間は、大阪市平均と比較すると大幅に上回っている。そこで、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とするよう取組を進める。ワークライフバランスを考えた働き方が必要とされている。

中期目標【概ね４年以内（令和 11 年度末まで）に達成をめざす成果目標】

【安全・安心な教育の推進】

① 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。

② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年、前年度より減少させる。

③ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

① 小学校学力経年調査における、国語・算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

② 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

③ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

① 小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度利用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を 60%以上にする。

② 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。

【令和８年３月時点　本校平均時間（累計）30 時間 21 分】

※同月時点の校種別の平均時間（累計）は 22 時間 02 分

③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

【平均 69.4%（４年 80.5%、５年 69.7%、６年 57.9%）】

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

①　小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90.6%以上にする。
【令和７年度　平均 90.5%、４年 92.7%、５年 87.9%、６年 94.8%】

②　年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【令和７年度　3.91%】

③　小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86.7%以上にする。
【令和７年度　平均 86.6%、４年 87.8%、５年 87.8%、６年 84.2%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

①　小学校学力経年調査における、国語・算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
【R6→R7　４年：国＋0.04P　算＋0.29P、５年：国＋0.11P　算＋0.11P、
６年：国＋0.04P　算＋0.06P】

	現４年生		現５年生		現６年生	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
R 6			1.02	0.98	0.91	0.92
R 7	1.08	1.15	1.06	1.27	1.02	1.03

②　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

③　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

①　小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度利用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を 55%以上にする。
【平均 53.4%（４年 43.9%、５年 24.2%、６年 92.1%）】

②　「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 22 時間以下とする。
【令和８年３月時点　本校平均時間（累計）30 時間 21 分】
※同月時点の校種別の平均時間（累計）は 22 時間 02 分

③　小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
【平均 69.4%（４年 80.5%、５年 69.7%、６年 57.9%）】

3　本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

（様式１）

大阪市立苅田南小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ①　小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90.6%以上にする。 【令和７年度　平均 90.5%、４年 92.7%、５年 87.9%、６年 94.8%】 ②　年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【令和７年度　3.91%】 ③　小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86.7%以上にする。 【令和７年度　平均 86.6%、４年 87.8%、５年 87.8%、６年 84.2%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 ・生活指導部会および生活指導全体会で、いじめや虐待に関して気になる児童の実態交流を行い、全教職員で共有していく。 ・「いじめアンケート」の実施や相談機能の活用によるいじめの早期発見の取組を徹底し、いじめを受けた児童の即時救済・対応を行う。	B
指標 ・生活指導部会および生活指導全体会で、いじめや虐待に関して気になる児童の実態交流を毎月１回以上行う。 ・いじめアンケートにおいて認知したいじめについて、９割以上解消する。	
取組内容②【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】 ・課題解決支援員やスクールカウンセラー、こどもサポートネット、SSW などとの連携により、不登校の未然防止や解決を目指す。	A
指標 ・家庭との連携を密にしながら、不登校の解決に取り組み、学校に来ない日が７日続いた場合、家庭訪問を実施し家庭との連携を深める。さらに、課題解決支援員やスクールカウンセラー、こどもサポートネット、SSW などと連携をとり、不登校の未然防止や、不登校傾向児童の登校日数が昨年度より増えるように働きかける。	

取組内容③【基本的な方向２、豊かな心の育成】 ・友だちのために活動できた、友だちに認められたという自己有用感が育つ取組を行う。 指標 ・異学年交流活動に関しては、隔週に開かれる縦割り班活動や、苅南フェスタ・苅南ハッピーディ・地域別子ども会などの学期に１度行うものを計画的に進め、成功体験を積み重ねていく。また、係活動や給食当番、掃除当番などに関しても、学級で活躍できる機会を同様に計画的に進める。これらの取組により、校内児童アンケート「学級や学校のためになる仕事をしている。」の肯定的な回答の割合を90％以上にする。【令和７年度　89.8％】	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】
①経年調査未実施のため、正当な評価できないが、児童アンケートの結果では、肯定的な回答が 85.1％（4 年 85.0％、5 年 75.7％、6 年 94.5％）であり、5.5％下回っている。全体を通しても 87.6％と 3.0％と下回る結果となった。

②不登校児童在籍比率 2.8％。前年度より減少できている。

③経年調査未実施のため、正当な評価できないが、児童アンケートの結果では、肯定的な回答が 83.5％（4 年 87.5％、5 年 78.0％、6 年 85.0％）であり、3.2％下回っている。全体を通しても 87.4％と 0.7％と下回る結果となった。

【取組内容について】
①生活指導部会については毎月１回行っている。「いじめアンケート」についても計画的に実施できている。いじめアンケートによる認知したいじめについては解消できているが、経過観察していく必要がある。

②不登校児童については、課題解決指導員やスクールカウンセラーなどの協力を得て、解決に向かうように取り組んでいる。家庭との連携も深めることができている。

③異学年交流について計画的に実施できている。校内児童アンケート「委員会活動や係活動などの学級や学校のための仕事をしている」については全体評価 91％であったため、目標を達成できている。

最終評価に向けて

①いじめ事案については、重要案件について共通理解を図るための場を開き、実態の把握に努めていく。

②③継続実施

（様式１）

大阪市立苅田南小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

<table>
<tr><th>年度目標</th><th>達成状況</th></tr>
<tr><td>【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】
①　小学校学力経年調査における、国語・算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
【R6→R7　４年：国＋0.04P　算＋0.29P、５年：国＋0.11P　算＋0.11P、６年：国＋0.04P　算＋0.06P】
<table><tr><td></td><td colspan="2">現４年生</td><td colspan="2">現５年生</td><td colspan="2">現６年生</td></tr><tr><td></td><td>国語</td><td>算数</td><td>国語</td><td>算数</td><td>国語</td><td>算数</td></tr><tr><td>Ｒ６</td><td></td><td></td><td>1.02</td><td>0.98</td><td>0.91</td><td>0.92</td></tr><tr><td>Ｒ７</td><td>1.08</td><td>1.15</td><td>1.06</td><td>1.27</td><td>1.02</td><td>1.03</td></tr></table>
②　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
③　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</th><th>進捗状況</th></tr>
<tr><td>取組内容①【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】
・国語科および算数科の授業について、言語活動の充実を図るための取組を行う。
・既習事項の定着を図る。

指標
・言語活用能力の向上のための具体的方法として、以下の活動を授業内において実践し、読む力や自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする力の向上を図る。
① 課題文に印をつけたり絵図に表したりして、理解する力を高める。
② 考えの過程や自分の考えをノート等にメモし、それを基に、友だちと話し合う活動を積極的に行う。
・週に１回以上、国語科および算数科の基礎的な学力向上に向けた問題に取り組む時間を設ける。</td><td>B</td></tr>
</table>

取組内容②【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】 ・教員一人一人が主体的・対話的で深い学びの実現に向けてどのようにアプローチするのかについての研究テーマをもち、グループや全体を通して授業改善を行う。 指標 ・研究テーマに応じて分かれたグループの中から、校内の教員全員による授業研究に取り組む。 ・全教員が、研究テーマに沿った授業の公開を一人１回行う。	B
取組内容③【基本的な方向５、健やかな体の育成】 ・体力や運動能力の向上に向けて、授業や休み時間に楽しく運動できる機会を保障する。 指標 ・各学級で週１回以上、学級遊びに取り組む。 ・年２回、各学級で「なわとびカード」「マラソンカード」を用いて、体力向上の取組を行う。 ・各学級で体育等の授業の導入において、体力テストの重点項目の向上に向けた取組を行う。	B
取組内容④【基本的な方向５、健やかな体の育成】 ・清潔検査と手洗い強調週間を実施し、健康を保持増進するための礎を築く。 指標 ・週１回、保健委員会が各学級に行き、全校児童の清潔検査を実施する。 ・年２回、保健委員会が「手ピカ週間」を実施する。	B
取組内容⑤【基本的な方向５、健やかな体の育成】 ・食事マナーの向上や学校給食に関心をもつ取組を行う。 指標 ・食育推進の取組を、給食委員会が年２回実施する。 ・毎月、給食月別目標を給食カレンダーや掲示板に掲示する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】
小学校学力経年調査未実施のため、数値目標については評価できないが、各取り組みや研修を計画的に進めることができている。

【取組内容について】
①基礎的な学力向上に向けた問題に取り組む時間を設けた。
（スイスイデーの実施・週に１回以上、国語科では漢字小テストを実施したり、算数科ではたし算、ひき算の練習問題や練習ゲームを実施）
課題文に印をつけて理解しようとする力を高めたり、自分の考えをノート等にメモし、それを基に、友だちと話し合う活動を積極的に取り入れたりした。少しずつ課題解決に向けて取り組もうとする態度が見られたり、気付いたことや振り返りをノートに書くことができている学級もある。

②それぞれの教員がテーマに応じたグループの研究テーマに向けての授業を工夫し、授業研究を通して研究を深め、授業改善を行っている。また、K タイムに質問や共有を行えている。
③各学級で「学級遊び」の時間を作り、定期的に行うことができている。係の児童が中心となって計画や実行をすることで、外遊びが苦手な児童も参加できている学級も見られた。

③体力テストの重点項目である「立ち幅跳び」と「握力」の項目において、数値が全国平均より下回り、特に立ち幅跳びでは大きな差が見られた。

④週１回、保健委員会が各学級に行き、全校児童の清潔検査を実施することにより、持ち物や手洗いについて再確認ができている。手ピカ週間は冬に実施予定。

⑤食育推進の取組は、食事マナーに関する内容を給食委員会で進めており、２学期と３学期に実施予定である。
給食月別目標を給食室前、給食掲示板、給食委員会掲示板、各教室に掲示している。

最終評価に向けて

①今後も継続的に実践に取り組む。

②全教員が授業公開を行えるよう、計画的に取り組んでいく。

③今後も「学級遊び」を定期的に行い、体育等の授業では「なわとびカード」「マラソンカード」の活用等により、児童の体力・運動能力の向上に取り組む。

③「立ち幅跳び」ではジャンプする運動を、「握力」ではうんていや鉄棒などの遊具を使った運動を取り入れる等、体力テストの重点項目向上を目指していく。

④今後も定期的・継続的に取り組む。

⑤給食委員会での取組を進め、食事マナーや給食月別目標の内容について、継続的に指導し、定着を図る。

（様式１）

大阪市立苅田南小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ①　小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度利用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を 55%以上にする。 【平均 53.4%（４年 43.9%、５年 24.2%、６年 92.1%)】 ②「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を月 22 時間以下とする。 【令和８年３月時点　本校平均時間（累計）30 時間 21 分】 ※同月時点の校種別の平均時間（累計）は 22 時間 02 分 ③　小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 【平均 69.4%（４年 80.5%、５年 69.7%、６年 57.9%)】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６、教育ＤＸの推進】 ・ICT を積極的に活用しながら、効果的な実践方法を探求する。 ・「情報活用の実践力」到達目標系統表に合わせた活用を行い、情報活用能力の向上を図る。	A
指標 ・教員への ICT 研修を年 3 回以上行い、教員の ICT 活用能力のさらなる向上を図る。 ・週に１回以上の家庭学習での活用やプラットホームを利用した学校連絡の配信など、家庭での ICT 機器の積極的な活用を取り入れる。	
取組内容②【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・個々で働き方の見直しを図り、教職員の時間外勤務時間を減少させる。 ・学校全体として業務内容の精選・効率化を検討し、教職員の時間外勤務時間を減少させる。	B
指標 ・毎週の「ゆとりの日」を一人一人が守る努力をし、時間外勤務時間減少に努め、一人当たりの月平均時間外勤務時間を２２時間以下にする。 ・文部科学省「全国の学校における働き方改革事例集」や教員へのアンケート調査などをもとに、前期と後期に１度ずつ業務内容の精選・効率化を検討する。	

取組内容③【基本的な方向８、生涯学習の支援】 ・学校図書館や学級図書等の積極的利用を促し、児童の読書意欲の向上を図る。 指標 ・学校図書館や学級図書等の充実や住吉図書館からの団体貸し出しの利用などにより、読書環境を整えた上で、子ども達が意欲的に取り組むために、学年ごとに目標の冊数を設定する。 ・図書の時間や読書タイム、図書館開放等を積極的に活用し、読書時間を増やすことができるような学校のルール作りに努め、学期ごとに見直しを図る。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

①2 年生以上が毎日タブレットを持ち帰り、連絡帳の確認やデジタルドリル、まとめの課題などに取り組んでいる。学校からの連絡もスクールライフノートやミマモルメで配信しており、授業以外の場面で端末を使う機会は確実に増えている。このことから、目標（週 3 回以上利用する児童の割合 55%以上）の達成に向けて順調に進んでいるといえる。

②令和 8 年前半の教員の平均時間外勤務時間は 29 時間 37 分で、令和 7 年の 30 時間 39 分から 62 分減少した。「ゆとりの日」の徹底や会議時間の短縮、学年だよりの簡素化などの業務の精選により改善は進んでいるが、目標の月 22 時間以下まではあと 7 時間 37 分あり、達成は厳しい状況である。

③貸出冊数を 1 人 2 冊に増やしたこと、住吉図書館からの団体貸し出しの見直し、学年ごとの目標冊数の設定、読書タイムや図書館開放、読み聞かせなどの取組により、昼休みや雨の日に図書室を利用する児童が増えている。読書に親しむ児童は増えており、目標（読書が好きと肯定的に回答する児童の割合 70%以上）の達成に向けて順調に進んでいるといえる。ただし、読書意欲には個人差がみられる。

【取組内容について】

①教員向けの ICT 研修（AI 活用研修を含む）を学期ごとに 2 回程度とミニ研修で、計画以上に実施している。その結果、教員の ICT 活用能力と活用への意識が高まり、学級指導や校務で活用が進んでいる。2 年生以上は毎日タブレットを持ち帰り、連絡帳の確認、デジタルドリル、まとめの課題などの家庭学習に使っている。学校からの連絡もスクールライフノートやミマモルメで配信しており、家庭でも ICT 機器を積極的に活用できている。1 年生も、写真による記録や友だちとの共有にタブレットを使っている。一方で、スライドやスプレッドシートなどをうまく使えているかについては課題も残る。

②「ゆとりの日」の定時退勤や仕事の分担、声の掛け合いによって、時間外勤務を減らす意識が教職員の間で高まっている。業務の精選・効率化も学校長を中心に進んでいる。具体的には、会議時間の短縮、電話対応の時間を 17 時 30 分に短縮、日課校時表の見直し、学年だよりの簡素化などである。令和 8 年前半の平均時間外勤務時間は 29 時間 37 分で、令和 7 年の 30 時間 39 分から 62 分減った。ただし、目標の月 22 時間以下まではあと 7 時間 37 分あり、超過勤務が多い月もある。また、働き方改革事例集の参照や教員へのアンケートは行っているが、結果が実際の取組にどう反映されているかが見えにくいという課題がある。

③1 人 2 冊まで借りられるようにしたこと、住吉図書館からの団体貸し出しの本を見直したこと、学級文庫を充実させたこと、学年ごとに目標冊数を決めて掲示したことで、読書環境が整ってきた。図書の時間や読書タイムに加え、図書委員会の放送による図書館開放も進み、昼休みや雨の日に図書室を利用する児童が増えている。読書カードで読んだ冊数が見えるようになったことや、読み聞かせ、友だち同士の本の紹介も、読書意欲を高めている。学校図書館司書が学習に関係する本を集めてくれることで、授業にも役立っている。

最終評価に向けて

①今後も研修を通して教員の ICT 活用能力の向上に努め、授業や家庭学習での実践につなげていく。スライドやスプレッドシート等のさらなる活用も進めていく。

②時間外勤務時間の減少に向けて、教職員一人一人が引き続き意識して取り組む。あわせて、教員アンケートの結果を業務内容の精選・効率化に反映させるなど、さらなる改革を進める。教職員が心身ともに健康な状態で働けることが、児童のよりよい学習環境・学校生活につながるという考えのもと、働き方改革を進めていく。

③読書週間等を活用し、児童の読書時間をさらに確保する。読書意欲には個人差があるため、学級では次の 3 点に取り組む。1 点目は、国語の授業で関連図書の紹介や読み聞かせを取り入れ、読む活動を通して貸出図書の物語文への興味を促す。2 点目は、図書の時間に絵本の読み聞かせや本の紹介を取り入れ、読書に対する意欲を高める。3 点目は、1 人 2 冊まで借りられるようにしたことで、発達段階に合った様々な本を選べるように支援する。また、学年ごとの目標冊数の設定状況を確認し、教職員間で共有する。